

(様式1)

平成28年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 034	提案機関名 横須賀三浦地域県政総合センター
要望問題名 野菜残渣(ダイコン・キャベツ)の適正処理システムの構築	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】 三浦・横須賀地域では、現在、野菜残渣の不法投棄等が問題となっています。現時点では、三浦市農業協同組合、県の普及とともに、野菜残渣の不法投棄についての指導は行っていないと聞いていますが、今後、野菜残渣をそのまま放置しておく「タネバエ」等、病害虫の発生原因になるとの研究結果も出ており、今後は対応していく必要があると考えます。 そこで、処分方法として考えられる方法としては、各地域で集め、野菜残渣の水分を減らし、堆肥化等し、畑に戻す方向が考えられます。そのための野菜残渣処理のシステム化について、研究を行ってほしい。 ① 野菜残渣の水分を減らす方法と水分の利用法 →搾汁方法と出た水分の利用方法(土壌還元消毒等) ② 水分を減らした野菜残渣の有効利用 →堆肥化・家畜飼料のサイレージとして利用できないか。 ③ 出来上がった堆肥の施用試験(線虫等病害虫増加の有無等、施用による問題が発生しないかの確認)	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名 農業技術センター1) 畜産技術センター2)	担当部所 生産環境部土壌環境研究課1) 企画指導部企画研究課2)
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 化学合成農薬に使用量を削減する防除技術の開発	
対応の内容等 野菜残さの堆肥化による有効利用法については、これまでに各種の堆肥化方法を検討していますので、以下の資料を参考にして下さい。 ・未利用資源堆肥化マニュアル(神奈川県) 平成22年3月 ・未利用資源の農業利用に関する研究(第4報)縦型発酵槽を用いた野菜屑の堆肥化法 神奈川県農総研報(138), 21-30 1998 ・生ごみ処理装置を利用した圃場残さ処理法の検討 土肥誌 73(2), 145-149 2002 野菜残さを液状化して利用することについては、現在、野菜残さの亜臨界処理液を利用した土壌還元消毒手法について検討しています。また、その共同研究の中では、同処理液の液肥としての利用も検討中です。 家畜飼料のサイレージ利用については、各地で検討事例がありますので、以下の資料を参考にして下さい。 ・野菜残さの飼料利用に向けた調製と肉用牛への給与技術 日本農業研究所研究報告『農業研究』第25号(2012年) p. 241～274 ・乳酸発酵処理した食品残さ飼料による黒毛和種肥育試験 神畜技所研報 No. 1 15-20 2012 野菜残さ処理のシステム化を現地で検討する場合は、以上の研究成果や他機関での取り組み内容を基に、現地の状況に合わせたシステム化のための技術的な支援を行います。	
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
備考	